

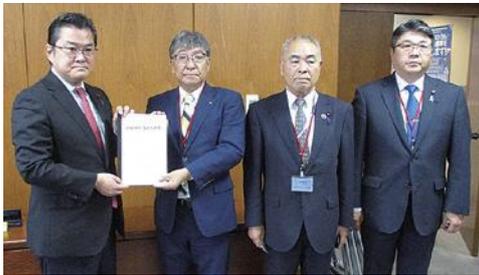
## 東通原子力発電所に関する要望書を提出

10月24日から26日にかけて、経済産業省(吉田宣弘経済産業大臣政務官)、東北電力㈱(樋口康二郎取締役社長 社長執行役員)、東京電力HD㈱(小早川智明代表執行役社長)に対し、畑中稔朗村長、川端一松村議会議員、田村智和村議会東通原発特別委員会委員長より、東通原子力発電所に関する要望書を提出しました。

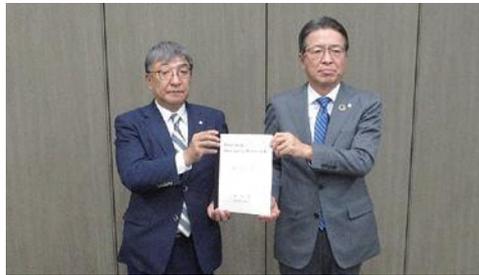
東通原子力発電所は、平成23年3月に発生した東日本大震災及び福島第一原子力発電所事故以降、東北電力1号機は停止し、東京電力1号機は工事中断し、既に12年以上が経過しています。

このような状況は、原子力発電所との共生による村づくりを進める村にとって憂慮すべき事態であり、非常に重要な課題であることから、東北電力1号機の早期の再稼働、東京電力1号機の早期の工事再開、エネルギー政策・原子力政策の推進、原子力発電所の安全確保と信頼回復、原子力災害対策の充実・強化、立地地域への影響の緩和について要望しました。

村では、原子力との共生を目指す「東通モデル」の推進へ向けて、安全性の確保を前提として、早期の再稼働と工事再開の実現のため、国、県、事業者との対話を深め、村議会と連携し、幅広い要望活動を展開していきます。



(左)吉田経済産業大臣政務官



(右)東北電力㈱樋口取締役社長 社長執行役員



(左)東京電力HD ㈱小早川代表執行役社長

## 元プロ野球選手 山崎武司氏による講演会が行われました



公演する山崎武司氏



野球部員と集合写真



野球部員に特別指導

10月23日、東通中学校において、全校生徒を対象とした愛知県知多市出身の元プロ野球選手である山崎武司氏による講演会が開催されました。

本講演会は、東北電力㈱が地域貢献活動の一環として、子どもたちのスポーツ・文化支援を目的に行われました。講師の山崎武司氏は、1987年から2013年まで27年間プロの世界で活躍し、本塁打王2回、打点王1回、通算本塁打数403本、通算打点1,205打点と華麗な経歴をお持ちで、引退された今もスポーツコメンテーターや現役のカーレーサーとして活躍されています。

講演会では、選手時代の苦労や経験から得られたことなど、時々冗談を交えながら語っており、生徒達は時には笑い声を響かせながら聴き入っていました。生徒からの「スランプに陥ったときは、どのようにして克服しましたか？」という質問に対して「私の場合はバッターだったので、一旦バッティングから離れて、ランニングなどで気持ちをリセットしていました。一旦離れることで改めて向き合うことが出来たので、皆さんもそういった場面に直面したときは、ぜひ試してみてください」とアドバイスを送っていました。

講演終了後、中学校野球グラウンドで野球部員に対し、守備練習の重要性、バッティングの際に意識すべきことなど、プロ27年間で培った知識やコツなどを直接伝授していました。